

セミナー「社会がおどなが性犯罪から子どもを守る!電車内痴漢犯罪」が10月14日午前10時正午、大阪市天王寺区のクレオ大阪中央で開かれる。講師は、一般社団法人「痴漢抑制活動センター」(大阪市)の代表、松永弥生さん。同センターは来月14日、大阪で講座



2017.9.21

ネット検索日々勉強

一番ありがたかったのは、西日本で2度巡ることができた。

先日は、私が小学校時代に疎開していた村をバイクで訪れた

国三十二所を巡りたいと思っていました」と。行き先をインターネットで検索して、電車とバスを乗り継いで、迷わずに行くことができた。その後も、ネットで色々と調べながら、9年か

トで無職、81歳)

痴漢から子どもも守ろう

人生案内

出久根 達郎 (作家)

恵まれた環境だからこそ、やる気が起らないのです。

学校生活そのものは、中学では考えられないほど楽しいです。

中学ではそりの合わな

高1女子、勉強意欲なくす

(滋賀・E子)

高校1年の女子。志望校は通常の金利より0・3%優遇する融資を始めた。全国でも珍しい取り組みで問い合わせる小売業者も増えている。

今年3月には、東京五輪・パラリンピックの大会組織委員会が、選手村などの食材1500万食分の調達基準として第三者認証のあるGAPを要件にすると決めた。農林水産省は2020年3月末までに国内の認証農場を現在の3倍(約1万3500件)にする目標を掲げる。

一方で、ネットによるのが費用面だ。生産者の規模や認証の種類で異なるが、審査費用として毎年10万~55万円はかかる。

滋賀県は、GAP認証件数日本一を目指し、認証取得費用の全額補助などを実施する。福島県は、GAP認証件数日本一を目指し、認証取得費用の全額補助などを実施する。福島県は福島原発事故による風評被害に今も悩んでおり、「消費者への安全性のアピールはもちろん、取得によって生産者の誇りにもつながれば」(福島県環境保全農業課)と期待する。



様々なチェックを経て収穫されるタマネギ(和歌山県紀の川市で、西野さん提供)

「安全な農作物」お墨付き

GAP制度 東京五輪機に普及図る

紀ノ川農業協同組合(和歌山県紀の川市)は2013年から、欧州発祥の国際規格「グローバルGAP」を導入している。取引がある流通大手から勧められたのがきっかけで、現在は桃やキュウリ、タマネギなど6品目で認証を受けている。

西野文敏さん(48)は「記録の大変」と話す。例えば、肥料一つにしても、種類や量、保管方法、田畠に入れた日時などを細かく記録する必要がある。

ほかにも「農産物保管場所の天井照明が割れても、混入のSE(牛海綿状脳症)問題などでの安全に対する関心が大変」と話す。例え、肥料一つにしても、種類や量、保管方法、田畠に入れた日時などを細かく記録する必要がある。

GAPは1990年代、BSE(牛海绵状脑症)問題などでの安全に対する関心が高まり、欧州でスタート。環

境問題や生産者の人権を重視する面も注目され、北米やアジアにも普及する。

日本ではグローバルGAP

のほか、日本発の規格「JGAP」も広まり、最近では生産者にGAP認証取得を求め

る小売業者も増えている。今年3月には、東京五輪・パラリンピックの大会組織委員会が、選手村などの食材1500万食分の調達基準として第三者認証のあるGAPを要件にすると決めた。農林水産省は2020年3月末までに国内の認証農場を現在の3倍(約1万3500件)にする目標を掲げる。

一方で、ネットによるのが費用面だ。生産者の規模や認証の種類で異なるが、審査費用として毎年10万~55万円はかかる。

滋賀銀行は4月、グローバルGAPなどを取得した生産者に対し、運転資金などを

負担の一方で、「整理整頓を心がけるなど、農作業全体に『管理』の意識を持つようになつた」と西野さんは実感する。

日本ではグローバルGAPを心がけるなど、農作業全体に『管理』の意識を持つようになつた」と西野さんは実感する。

JGAPの認証マーク(日本GAP協会提供)

「Good Agricultural Practice(よい農業の実践)」の略。食品安全や環境保全、労働安全などに関する法令を守るために項目を定め、第三者の認証機関が農場に出向いて審査する。第三者によるチェックがない簡易型のものもある。



登録番号 123456789

◆主なGAP ※農林水産省などによる

運営主体	第三者認証	認証農場数	
		グローバルGAP	JGAP
民間非営利団体 フードプラス(ドイツ)	あり	427 (4月末)	
日本GAP協会 (東京)	あり	4113 (3月末)	
都道府県や 生活協同組合など	一部あり	一	

P総合研究所(茨城県つくば市)が6月、全国1034人に行ったインターネット調査では、「GAPを『知らない』と答えたのは58%に上った。「名前を聞いたことがある程度」は33%で、「詳しく知っている」は9%にとどまった。

消費者の理解不可欠

長男が「退屈しきり」と、パソコンを持って来てくれた。職場では、若い社員が教えると言つてくれていたが壊してはいけないと触ることもなかつた。息子たちが教えてくれたり、講習会に参加したりして、何とか使えるようになつた。